

第26回 h a r a p p a 映画館

# 弘前出身、木村文洋監督特集

青森から東京へ——「もうひとつの家族」の物語

プレスリリース

## 開催概要

2008年より「まちなかに映画館を！」を合言葉に、弘前市の中心市街地にて、弘前市内で見る機会の少ない優れた映画をプログラムし上映しております「harappa映画館」。

今回の harappa 映画館は、弘前出身・木村文洋監督特集を行います。青森県六ヶ所村を舞台に 2008 年に制作された『へばの』と、最新作で、国内初上映となる『息衝く』の2作品を上映いたします。また、当日は木村監督も来場し、舞台挨拶やシネマトークを行います。

交錯する風景と時間と記憶・・・まだ誰も見たことのない映画を広くみなさまとスクリーンで共有したいと思います。

事業名：harappa映画館「弘前出身、木村文洋監督特集」

(「平成29年度弘前市市民参加型まちづくり1%システム」対象事業)

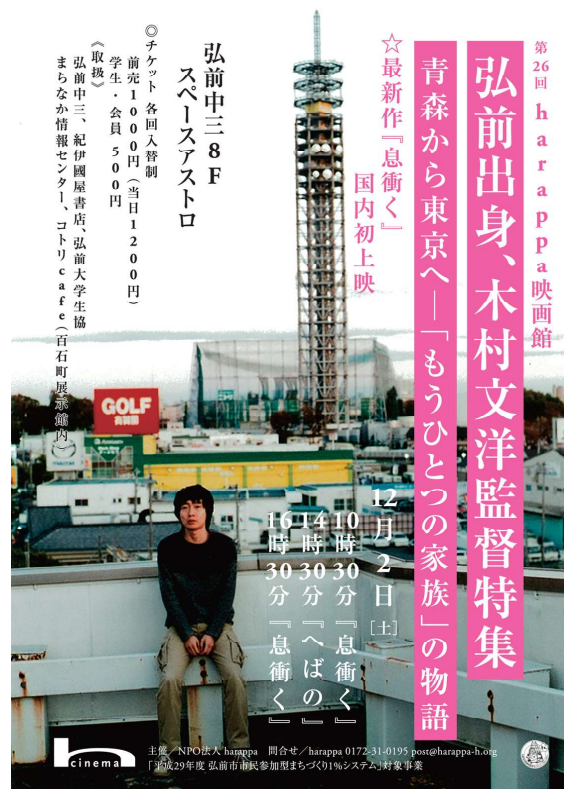
開催日：2017年12月2日(土)

会場：弘前中三8F・スペースアストロ (〒036-8182 青森県弘前市土手町49-1)

主催：NPO法人 harappa

©平成29年度 弘前市市民参加型まちづくり1%システム活用事業

問合せ：harappa(担当:小杉) 電話. 0172-31-0195 e-mail. post@harappa-h.org



## 弘前市市民参加型まちづくり1%システム

「弘前市市民参加型まちづくり1%システム」とは、個人市民税の1パーセント相当額を財源に、市民自らが実践するまちづくり、地域づくり活動に係る経費の一部を支援する、公募型の補助金制度です。

町会やNPO、ボランティア団体をはじめとする市民活動団体などが、自らの地域を考え、自ら実践することにより、地域課題の解決や地域の活性化につながる活動を支援し、「市民力」による魅力あるまちづくりの推進を図るものです。

タイムテーブル -----

10:30 『息衝く』 ※1 回目

14:30 『へばの』

16:30 『息衝く』 ※2 回目

チケット -----

前売 1000 円 当日 1200 円 学生 500 円

(※入替え制。1 作品ごとにチケットが1 枚必要です。)

《取扱店》

弘前中三、コトリ cafe (弘前市立百石町展示館内)、紀伊國屋書店 弘前店、まちなか情報センター、弘前大学生協

《予約》

npo harappa

電話 0172-31-0195 E-mail post@harappa-h.org

※チケットのご予約の場合は、お名前、ご住所、電話番号、チケット枚数をご連絡ください。

読者・視聴者チケットプレゼント -----

読者・視聴者プレゼントとしまして、招待券ペアチケット2組をご用意しております。プレゼントコーナー等でご紹介いただければ幸いです。ご入用の際は事務局(担当:小杉 [harappa]0172-31-0195 / post@harappa-h.org)までお申し付け下さい。当方から直接の郵送も可能です。

プレス用写真について -----

劇中のスチール写真・ポスター画像をご用意しております(JPEG データ)。

ご必要の際は事務局までお申し付け下さい。

(担当:小杉 [harappa]0172-31-0195 / post@harappa-h.org)

## 上映作品

## 息衝く ☆国内初上映／各回上映後シネマトーク

監督：木村文洋

脚本：木村文洋、杉田俊介、兼沢晋、中植ささら、桑原広考 撮影：高橋和博、俵謙太

出演：柳沢茂樹、長尾奈奈、古屋隆太

2017年 / 日本 / 130分



東日本大震災から数年が経過した夏の東京。新興宗教団体「種子の会」の青年信者・則夫と大和は、「種子の会」を母体とする政党「種子の党」の選挙戦に駆り出される。則夫と大和はともに、自衛隊派兵を機に失踪したかつてのカリスマ的リーダー・森山を師としていた。選挙活動のさなか、則夫は幼少期を共に過ごし思い焦がれていた慈（よし）と再会し心が揺れ動くが、同居する母・悦子の最期が近づいていた。則夫と悦子は、青森県六ヶ所村から東京に移住し、父と妹と20年以上会っていなかった…

## ◎ シネマトーク

10:30 回上映後「木村文洋監督、同世代と語る」

16:30 回上映後「『息衝く』徹底分析」

## へばの ☆上映前舞台挨拶

監督：木村文洋

脚本：木村文洋 撮影：高橋和博

出演：西山真来、吉岡陸雄、長谷川等、工藤佳子、木村絹代

2008年 / 日本 / 81分



青森県六ヶ所村に住む紀美は、再処理工場で働く治との結婚を間近に控えていた。しかしある日、治は作業中にプルトニウムの内部被曝に襲われる。同じ工場で働く紀美の父・大樹は、二人の間に生まれるであろう子供への影響を心配し、二人の結婚に反対する。紀美は治と一緒にいたいと願うが、治は突然姿を消す。三年の歳月が流れ、治が戻ってきたという噂が流れる…

## ゲスト

## 木村文洋 監督



1979年弘前市生まれ、弘前高校卒業。京都大学在学中の1998年より自主映画の制作を始め、2000年より京都国際学生映画祭の運営に参加、2003年運営委員長となる。大学卒業後、映画監督の井土紀州らに師事、井土監督の『ラザロ』（2007年）のプロデューサーなどをつとめる。

長編初監督作品が『へばの』。第二作『愛のゆくえ（仮）』（2012）は、第25回東京国際映画祭「ある視点」部門上映。harappa映画館でも2013年に上映された。『息衝く』は第三作。